

「海道をゆく 2011 世界の環境を考える研修」

(日本海(東海)沿岸に漂着した海洋ゴミの回収を通じた日韓交流事業)

韓国の南ソウル大学の学生20名が来日し、7月1日から9日にかけて日本海(東海)の沿岸に打ち寄せられる海洋漂着ゴミ回収を通じた日韓交流事業を実施しました。

この事業は、韓国、中国、ロシア等から漂着する海洋ゴミ問題を環日本海諸国に共通の海洋環境問題と捉え、鳥取大学の協力の下に、韓国の学生が日本を訪問し、地域住民、地方自治体と共に清掃活動や啓発活動などを実施するものです。

本事業は、今年で6年目(第7回目)となり、今回は、鳥取大学のクリーンキャンパス活動を皮切りに、鳥取砂丘、兵庫県新温泉町、岩美町、琴浦町、米子市の海岸で行いました。参加した学生達は日本海(東海)沿岸を自転車で移動しながら、それぞれの海岸で地域住民と海洋ゴミの回収を行うとともに、地域住民との交流会や環境をテーマとした研修活動を実施しました。

海洋ゴミの回収や、交流会、研修活動の実施にあたっては、各市町村、国際交流団体、ボランティア等から多大な協力と支援を頂きました。この活動も恒例となっていることから、学生たちの到着を楽しみに待っている地域住民も多く、交流活動や研修も深まりのあるものとなりました。また、今回、初めての訪問先となった米子市では、約30名の米子工業高等専門学校(米子高専)の学生と共に米子市の海岸で清掃活動を行い、その後、米子高専主催による盛大な歓迎交流パーティが行われました。学生たちは相互にメール交換を行うなど、日本と韓国の若者による今後の交流が期待される有意義なものとなりました。

さらに、今年度は、本事業の趣旨に賛同した東京韓国学校から高校生を中心に32名が来鳥し、共に海岸の清掃活動を行うなど、南ソウル大学と鳥取大学から始まった本事業が大きな広がりをみせていることを実感しました。今回の活動を通して、南ソウル大学と鳥取大学のみならず、この活動に参加した地域住民や各自治体、その他多くの団体にとっても環境問題への意識が高まると共に、日本と韓国の若者が共同して行う海洋ゴミ回収をきっかけに、日韓両国の相互理解と友好関係を深める意義深い交流事業となりました。



鳥取砂丘での海岸清掃活動



自転車での移動